

## 会 議 録

1. 会議名	出雲市子ども・子育て会議 第1回 発達支援検討部会
2. 開催日時	平成25年12月17日(火) 18:30~20:30
3. 開催場所	出雲市役所本庁 くにびき大ホール
4. 出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>板倉明弘委員、西郁郎委員、原広治委員、及川馨委員、岸和子委員、山崎彰子委員、江角美枝委員、長光悦子委員、藤原美保委員、名越真理子委員、福田明美委員、太田澄子委員(順不同)</p> <p>(欠席: 廣戸悦子委員)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>健康福祉部長、健康福祉部次長(兼 子育て支援課長)、福祉推進課長、健康増進課長、教育政策課長、学校教育課長、教育政策課幼児教育支援室長 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 専門委員の委嘱及び委員の紹介(自己紹介)</p> <p>3 部会長の選任(互選)</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 出雲市子ども・子育て会議について(報告)</p> <p>(2) 部会について(協議)</p> <p>(3) 出雲市の発達支援に関する主な取り組み等について(報告)</p> <p>(4) 幼児期の発達支援について(意見交換)</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	1 開会(健康福祉部長あいさつ)
事務局	2 専門委員の委嘱及び委員の紹介(自己紹介)
	3 部会長の選任(互選)
	部会長に原広治委員を選出
部会長	<p>部会長あいさつ</p> <p>発達支援という名称の部会はあまりないと思う。委員の皆様に意見をもらいながら、発達障がいのある子ども、ない子どもも含めて支援につながっていける議論をしていきたい。</p>

事務局	<p>4. 議事</p> <p>(1) 出雲市子ども・子育て会議について</p> <p><b>【資料3「出雲市子ども・子育て会議について」の説明】</b></p> <p>(2) 部会について</p> <p>会は原則非公開。発言者名を記載しない形で議事録要旨を作成し、市のホームページに公開することよろしいか。</p>
各委員	<p>(了承)</p> <p><b>【資料4「審議スケジュールについて」の説明】</b></p>
事務局	<p>次の部会は、来年の2月頃の開催を予定している。また、来年度の開催予定を資料に示している。子育て会議の開催に合わせて部会を開催することとしてよろしいか。</p>
各委員	<p>(了承)</p> <p>(3) 市の発達支援の取り組みについて</p> <p><b>【資料5「出雲市子ども・子育て会議について」の説明】</b></p>
事務局	<p>この部会は任意ではあるが、あえて子ども・子育て会議の中に部会を設置した目的は、保護者や教育者、保育者のいずれもが、子どもとの関わりにおいての困り感を感じているという現状があり、社会背景を踏まえて出雲市としてどのように対応していくのが大きな課題となっているからである。行政のみではうまくいかない。各課で様々な事業を取り組んでいるが、システム化されたものではないという現状もある。そういう点も含め皆様に様々なご意見等いただきたい。</p>
部会長	<p>(4) 幼児期の発達支援について</p> <p>委員それぞれの立場によって関心事は違うと思うので、それぞれの立場からご意見をいただきたい。子どもの成長に伴う現状と課題等をイメージしやすいように、委員の中から保育園・幼稚園、学校関係者という順で発言していただき、それに関連づけて委員の皆様とやり取りをしながら進めていきたい。</p>
委員	<p>保育所は子どもの年齢によって国が定めた職員配置基準がある。しかし、その配置基準では保育がまわらなくなってきている状況である。発達障がいの子どもが増えてきていることもあるが、子ども全般に支援が必要になってきている。</p> <p>私達は発達専門家でないので、子どもに発達障がいがあるというような話を保護者に対してはできない。もう少しいろいろなところに相談できるといい。その子どものためにどうするのがいいのかを園でも考えている。支援加配で対応している子ども</p>

	<p>の保護者から、「うちの子は障がいではないですから」と話に応じてもらいにくい家庭もある。一方で、ニーズ調査項目にもあるが「子どもの発達について悩みや心配なことがある場合、どこに相談するか」ということについて、いろいろな所へ相談される方もある。保護者が安心できる答えを出していないからかもしれないが。保護者と同じ目線で話ができることが現場として特に心配なところ。</p>
部会長	<p>保育者も保護者も子どもの成長を願っているが、若干のズレがあるということ、相談にもなかなか乗れないということを知った。</p>
委員	<p>保育所では0～2才の保育に手厚く関わっていきたいと考えているが、国の職員配置基準では子どもの集団が大きく十分にできないという思いがある。園で落ち着きがない子ども達に十分に関わりきれていないことに保育者として責任を感じている。園では静かで家庭的で密な関わりが必要ではないかと思うが、園でもにぎやかな中に行くと、子どもの落ち着ける場所がない。解決に向けて、子どもを「育てる」という原点に戻って整備していかなくてはならない。</p> <p>支援加配で対応している子どもは対一で対応できる。少し支援してあげたい子どもにも関わっていきたいが、体制的に充分ではない。今できること、今後どうなっていくかということ各園、小学校、中学校等がトータルで、かつ長いスパンで子どもをみられるようにしていかなくてはならない。それぞれつないでいるが、この時の関わりはどうだったのか振り返りができていないのではないかと。関わり方やどんな支援が必要だったのか、どうしてほしかったのかというのは保護者がよく分かっている。保護者の声を聞いて振り返る機会が必要だと思う。</p>
部会長	<p>子ども支援には人の量的な配置が必要なと同時に、保育者としての質的向上を担保していく必要がある。</p>
委員	<p>高齢者向けの施策は多いが、子どもに対する予算がつかない。小児科医会では胎児期（生まれる前）から親になるまでの枠組みを定めた「育成基本法」を提案している。</p> <p>最近の親の子育てに関して、アメリカでは、歩行器の前にスマートフォンを置いて子守をさせているという事もあるようだ。母親がスマートフォンを見ながら授乳している現状もあり、保護者と子の関係が断ち切られている。知らず知らずの間に子育てから離れている。胎児期から担当する産婦人科の医師にも委員に入ってもらえたらと思う。</p>
部会長	<p>子どもが胎児のときから、子どもの成長に伴って親としても成長していく期間において何が必要とされているのかについて検討するとともに、幼稚園・保育所や学校教育の中でもどのように取り組み、関わっていくのかを考えておく必要もある。回り道だが大事な支援につながる。</p>

委員	<p>3才頃には幼稚園へ入園するが、気になる子どもは、育ってきた家庭環境によるものか、その子どもの特性なのかわからない。入園時には、特性のある子どもかなと思っていた子どもでも、やがて改善されることも多いことを考えれば、やはり0～2才で育ってきた環境によるものも多いと感じている。それまでの家庭での子育て環境が大切であると感じている。</p> <p>保護者も子どもの特性を感じ、関わり方を模索されている。また、保護者は一生懸命子育てをしている。分かっているが、認めたくないと思う方も多く、次の支援や相談につなげにくく、気になる子どもの対応が難しくなっている。子どもが行動で示すことに対し、保護者はどう子どもに関わっていいのかわからない、育児書通りにうまくいかないという保護者が増えている。</p>
部会長	<p>ここまでは、保護者に関する意見が多かったが、保育者側にベクトルを向けた課題について考えておられることはあるか。</p>
委員	<p>幼稚園や保育所の状況を経て、小学校にその子ども達が入学してくることになるが、個別支援ファイルを持っている子どもはそれを引き継いで支援している。</p> <p>小学校で特に対応が難しいのは「気になる」で留まったまま小学校に入学した場合である。保護者とのつながりもまだないために対応が難しい。小学校は1クラス30～40人の大人数であり、具体的な支援がないままに入学してくる場合、子どもが集団のルールや生活の流れなどにうまく適応できずに非常に苦労している。</p> <p>「小学校に入れば環境も変わるので何とかなる」と期待される保護者もいるが、現実には保育所や幼稚園で気になっていた子どもで小学校・中学校でも支援が必要な子どもが多くいる。具体的な支援につながっていないために、もう一度新たに小学校で支援策を模索するようになる。</p>
部会長	<p>診断名がついていない子どもの対応について、特別支援教育のセンター的機能のある特別支援学校の立場から如何か。</p>
委員	<p>幼稚園、保育所、小・中学校などの巡回相談において「集団でちょっと気になる」子どもがいるが、保護者には困り感がないことがある。家庭において一対一で見せる子どもの姿と集団で見せる子どもの姿に違いがあるからだと思われる。そのような場合に、保護者にどのように伝えていくのかということが難しい。保護者は子どもの様子から何かを感じているが現実から避けている場合や、全く感じていない場合などいろいろある。</p> <p>気になる小学生や中学生は、遡ってみると保育園や幼稚園でも気になっていることがある。当初の気づきが具体的な支援につながっていない場合がある。巡回相談員(外部)が園に行くと、子どものことが気になっている保護者と相談できることもある。</p>

部会長	<p>誰かがどこかで伝えていかなければならない。保護者への理解を促したり、子どもの話が十分にできる仕組みがあったらいい。</p> <p>仕組みやシステムのひとつとして保護者へ伝えていくのか、教育や保育の営みの一環として伝えていくのかについての議論が必要。いずれにしても保護者と一緒に子どもを支援していくという意志をみせていきたい。</p>
委員	<p>「子どもが気になる」という内容で保護者等が相談に来られる場合が多い。就学前ぐらいになると子どもの動きが活発になり、保護者との気持ちがそぐわないところがある。子どもが大きくなってから保護者が子育てを振り返ると、気づいている保護者は1歳までのところで気づいていることもある。支援者と保護者とのスピード感が違う場合もある。</p> <p>福祉相談として医師が参画する相談日が定期的に設けられている。福祉相談であるため診断名はつかないが、この相談によって子どもが気になっている人にはワンクッションになっているのではないか。支援者と保護者のスピード感を埋めることで、保護者の気持ちに余裕が生まれるため、支援につなぐ側としても丁寧にできると思う。「気づいていないから、気づきなさい」ではうまくいかない。いくつかのやり方があるのではないかと思っている。</p>
部会長	<p>いくつかのやり方というところは今後大いに議論していきたい。</p> <p>保護者からの「〇〇してほしかった」「〇〇があったら良かった」というような話もあると思うが、普段の日常業務のなかで就学前の発達支援についてお考えのことがあればお聞きしたい。</p>
委員	<p>通所サービスを利用される場合には告知を受けて、保護者も理解されている子どもがつながってくる。どの段階でも支援につながらなかった子どもや、保護者の理解が得られないままで就学してしまう子どもは、学校生活に不応を起してしまう状況がある。保護者の中には「相談できる事業所があること自体も知らなかった」、「相談先が分からない」、「相談しても思った答えが返ってこない」というような方もいる。保護者の中にはかなり勉強されている方もあり、相談内容はより具体的である。質問に対する答えが返ってこない場合は、いろいろなところに相談されることがある。</p> <p>福祉サービスにつながっていない場合は、誰がキーパーソンとなつてつないでいくのか、どこで判断をするのか。保育所や幼稚園は子どもの状況を伝えることで、保護者との信頼関係が揺らぐのではないかという思いがあるのでしにくいのではないかと。</p> <p>窓口を明確にし、スーパーバイザーを置くなど、機能的な連携をしていく場をつくっていく必要があると思う。</p>
部会長	<p>「連携」について、実際うまくまわっていない場合がある。その現状に対して何が</p>

委員	<p>あればいいのか、どのようにしていくのがいいのか、今後、議論していきたい。</p> <p>発達クリニックでは診断を求められるが、一対一の診察場面では状況がつかみにくい。その場で保護者が気づかれる場合もあるが、個での関わりと集団での関わりでは様子が違う。発達クリニックでは園での状況も参考に診察をすることが多い。集団生活の情報もなく、一般の発達外来を受診される場合、保護者からのワンポイントの情報のみのため診断が難しい。</p> <p>集団生活の状況を何回か観察しながら、伝えていく中で保護者への気づきへつなげられると思う。実際に園での様子を保護者に見てもらうことも気づきにつながると思う。</p> <p>保護者の子育て力が弱い現状では、園においては一般的な育児支援もする必要があるので、人員配置の充実は必要だと思う。巡回相談等で子どもの観察をするとともに、保育所や幼稚園へ助言する体制も必要だと思う。</p> <p>複数回観察を重ねる中で、課題等が分かった時に、医療機関を利用してもらえると話がしやすくなる。</p>
部会長	<p>1回ではなく複数回、集団と一対一の様々な状況を踏まえた協議を重ねて、システムとしてつくっていく必要があるということをつたえた。</p>
委員	<p>島根県では市町村支援として、健診で早く気づいて保護者の気づきを促すことを目的に1歳6か月児健診のマニュアルを現在作成中である。早期からの気づきのために、1歳6か月児健診と、園等の集団の場を経験しながら客観的に保護者が気づき、相談や医療等につないでいく方法として全県の展開をめざしている。遡ると小さい時に保護者や園は気づいていることも多いため、早くから気づいて支援につなげる方法の1つとして、健診をきっかけとした保護者支援ができるのではないかなと思う。</p> <p>医療ケアの必要な子どもやダウン症の子どもなどの支援をする中で、わが子の就学先としてどこの学校を選ぶのがいいのか、どこに相談したらいいのか、情報が乏しいという声がある。早期から情報発信していけるといい。</p>
委員	<p>各委員それぞれの立場からの話を聞いて参考になった。市の状況や取り組みは分かったが、行政として、どう対応できるのか部会の真価が問われる。</p> <p>各委員の意見から誰がつなぐのか、どこで評価するのかという判断、保護者に伝えることが難しい園の現状等から、センター的な窓口が必要ではないかなと思う。</p> <p>東京都立川市を視察した。立川市には子ども未来センターがあり、巡回相談や保護者からの相談を受けたり、保護者同士のグループ支援を平成25年1月から始めている。早期発見、気づき、相談機能の充実、支援機関の連携、体制の確立がこの部会の最終的にめざすものではないかなと思う。</p>

部会長	<p>出雲市にとってどういうスタイルがよいか提言できたらと思う。</p> <p>既に出ているものもあるが、今後こんなものがあつたらいいというものがあれば発言いただきたい。</p>
委員	<p>園はつなぎもしているが、園の判断が正しいのか、適切なところにつなげているのか不安である。総合窓口で相談しながらであれば、的確な支援ができるのではないかなと思う。</p> <p>園では、発達障がいの有無に関わらず、保護者への気づきをどうしていくのかといろいろな取り組みをしている。何か気づきになればとの気持ちで全ての子どもを対象として、自己肯定感の獲得やメディアに関する講演会を年1回程度開催している。子育てをしている全世帯に気づいてもらえる方策を考えている。</p>
委員	<p>昨年度から、出雲市でも5歳児健診のような就学前の5歳児を対象とした取り組みを検討し始めたところだが、先日松江市のエスコについて話を聞いた。4～5才で集団生活になじめない子どもをどうするのか。保護者と園のアンケート結果から新たな気づきもあった。その部分を今後どうしていくのが課題と思う。</p> <p>出雲市でモデル事業として実施しているものに加えて、平田地域では独自にアンケートや相談を実施しているが、ある程度の効果が出ているのではないかなと思っている。簡便な方法だと思うので全市的にやってもいいのではないかな。昨年度の事業は医師の負担が大きかったため、医師を主体としない方法で今後も取り組んでほしい。今年度の年中児発達相談事業（モデル事業）の進捗状況もまた教えてほしい。</p>
部会長	<p>今回はオープンクエスチョンで進めているので、いろいろな話題が出てきている。次回以降キーワードを示すとともに、論点を整理しながら協議していきたい。本日の段階で質問や意見等があれば事務局へ提出してほしい。</p>
事務局	<p>第2回の部会については審議スケジュールのとおり、来年の2月頃を開催予定としている。</p>
部会長	<p>これで議事を終了する。委員の皆様にお礼申しあげる。事務局に進行をお返しする。</p>
事務局	<p>長時間にわたりご審議いただき、お礼申しあげる。次回は2月頃の開催で、テーマ設定して話を進める予定にしている。</p> <p>これをもって、本日の会議を終了する。</p> <p>会議終了</p>